

卷 頭 言

他の凡ゆる動物が之を育む大地の環境に完全に制約され、只管本能に従つて醉生夢死する間に、獨り人類のみは所與の環境に甘んぜず、自覺した目的を以て其の制約力を緩和し、進んでは環境其のものを絶えず多少ともに變化し、以て之を自己の生存に一層適應したものとたらしめんと努める。吾人が文化と呼ぶ處のものは、要するに人類が自然の制約を輕減するために案出し作製した有形無形の所産物並に此等を作るための教養及び技術の總和に他ならない。此の文化の進展を時間的に追究する所に歴史の本質があり、空間的に比較する所に地理の使命がある。文化の本體を時間的に又空間的に把握せんとする吾々歴史及び地理研究家の任務も亦重し哉。

會長 北 田 宏 藏